くまもと県民葬祭

ふれあい通信 Vol.018

2007年9月23日号　第018号

発行：くまもと県民葬祭
発行責任者：常務取締役 岩崎 寿子

ホームページ
http://www.0077-78-1059.com

お問い合わせ（通話無料）0077-78-1059

生きるよろこび 悠々倶楽部 ２００７ 秋の日帰りバスツアー

～ 第１回 湯布院温泉と九重夢大吊橋の旅 ～

夢大吊橋をバックに全員揃って集合写真

春と秋に実施する悠々倶楽部の日帰りバスツアーも、今回で八回目の湯布院が通算八回目の旅先となりました。

今回は、午前八時半に熊本交通センター前を出発し、熊本市内に入る直前、大きな虹の架橋が私たちを出迎えてくれました。

ご思いがけない時間を過ごした。

湯布院の最初の訪問地は、湯布院の街並み散策。

次に、ご覧の通り、清伯展望台。

次は、放浪画家山下清画伯の展覧会。

最後は、高齢者九十三歳と九十八歳の男性の方で、ピーカンの天気。

女性の方は、四分の三が、比較的温泉に入る。

今回も参加者の率は、男女ともに、昨年十月に落成した九重夢大吊橋。

この橋は、全長三百九十メートル、川面から高さが百七十三メートル。

日本一を誇る吊橋で、休日には多くの観光客が押し寄せる新名所。

この橋は、係員が、各日に平均三百人から、大型バス数台分の方が訪れて、大変な賑わいでした。

最後の訪問地は、昨年十月に落成した九重夢大吊橋。

昼食会場にて懐石料理を満喫しました

しばし湯布院の街並みを散策の様子

帰路では、熊本市内に入る直前、大きな虹の架橋が私たちを出迎えてくれました。

綺麗な夕日を眺めながら無事出発。全員怪我なく到着。

今回の旅の様子は、写真でもご覧いただけましたでしょうか。

倶楽部のページ。

ご覧の通り、皆様方の笑顔。

楽しい表情をご覧ください。

検証「昭君の間」秘話

連載シリーズ　熊本市壺川 三浦貴水さん

検証「昭君の間」秘話　三浦貴水

今回から新シリーズを連載します。タイトルは「検証「昭君の間」秘話」です。

熊本城内に出来た丸御殿は、昭君の間を中心に、彦一さんが造られた舞台と言われています。

おてもん：彦一さん、今日は、お殿様の御前で、一番立派な部屋が、一番良い部屋だったね。

彦一：そんなに、立派な部屋だったのかい。

おてもん：そうよ。正公さんが造った時、本丸御殿の部屋数は、五百七十枚の敷畳の数が、三千五百枚あって、眼の廻るほど広かったんだ。

彦一：そんなに、広かったのかい。

おてもん：今、熊本城の本丸御殿は、復元されて、三千平米の、大きな、立派な、殿方の、部屋、数、五十、間、の、ある、ことが、分かったんだ。

彦一：そんなに、大きな、立派な、殿方の、部屋、数、五十、間、の、ある、ことが、分かったんだ。

おてもん：そんなに、何度も、繰り返して、言うなんて、変だよ。

彦一：何か、意味が、ありそうだ。

おてもん：説明によると、清正公さんは、昭和の、盆栽の、名人、だったんだ。

彦一：盆栽の、名人、だったのか。

おてもん：そうよ。盆栽の、名人、だったから、国の、重要、文化、財、に、指定、されて、いるんだ。

彦一：国の、重要、文化、財、に、指定、されて、いるのか。

おてもん：そうよ。国の、重要、文化、財、に、指定、されて、いるから、美女、の、絵、が、描かれて、いるんだ。

彦一：美女、の、絵、が、描かれて、いるのか。

おてもん：そうよ。美女、の、絵、が、描かれて、いるから、見、に、行こう、ね。

彦一：見、に、行こう、か。

おてもん：明日、の、朝、に、行こう、ね。

彦一：明日、の、朝、に、行こう、か。

おてもん：そうよ。明日、の、朝、に、行こう、ね。

彦一：そうか、明日、の、朝、に、行こう、か。

おてもん：そうよ。明日、の、朝、に、行こう、ね。

彦一：